

## 第9回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成26年11月17日（月）10時00分～12時00分

場所 鎌倉市役所 本庁舎 402会議室

出席 深野会長、浅川委員、久保田委員、大道委員、橋詰委員、波多辺委員、保坂委員、牧田委員  
<事務局>

環境部 石井部長、小池次長、川村次長

資源循環課 内海担当課長、谷川担当課長、佐藤担当係長、奥貫担当係長、  
吉田担当係長、安倍職員、松本職員、大谷職員、古賀職員

環境施設課 遠藤課長

環境センター 杉田担当課長、佐藤担当課長

傍聴者 3名

会議の前に第8回審議会の議事録の内容について了承され、公開とすることが確認されました。

議題 1 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

報告事項 1 有料化等について

2 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の進捗状況について

その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

### 議題 1 第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画について

事務局から第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画の策定スケジュール、アンケート、ワークショップ概要等について説明した後、審議を行った。

波多辺委員：事業者アンケート調査について、数はどれくらい調査するのでしょうか。

安倍職員：市内の事業者は、統計上約7,000社がいますが、作業はタウンページ等に登録している事業者からの無作為抽出によって調査を実施します。調査対象は2,000社とし、実際の割合を考慮して、許可業者と契約している事業者から600社、それ以外の事業者から1,400社を考えています。

牧田委員：市民アンケートについて、今回はWebアンケートのみとの事です。実効性があるとは思いますが、事前登録したモニターが対象となるため、全体の動向を見るときは、意見が偏るのではないかと危惧しています。

保坂委員：問17の情報発信の回答のように、質問項目によっては確かに多少偏る可能性があると思います。

大道委員：現実的に若い人の情報源がインターネットであるということを考えると、そういう人達に関心を持ってもらうという意味では、Webアンケートは意味があると思います。鎌倉女子大学でワークショップを実施とのことですので、啓発等もできると思います。私は30～40代の親世代に、ごみの減量について聞いてみましたが、具体的な行動はしていないとのことでした。若い世代はLINEで会話をする等、付き合いの仕方も変わってきており、実際に集まって話をするという機会がないため、聞き取りができませんでした。市の方でワークショップ

をするということは、そういった方たちの関心を高めることに繋がるため、意味合いは大きいと思います。そのワークショップの中で新たな繋がりができたら良いと思います。

深野会長：ワークショップについては若年層からのヒアリングとリデュースワークショップのふたつが検討されています。このワークショップに今後の発展性があればさらに良いため、そういった配慮もして欲しいという意見ですね。

牧田委員：ワークショップを続けていき、意識を高めることは大事なことです。鎌倉女子大学で実施することにも大きな意味があると思いますが、鎌倉女子大学だと4年で市外へ出て行く人もかなりいると思いますので、できればもう少し若い高校生ぐらいを対象としたワークショップを、学校等で実施できれば良いと思います。鎌倉市民であり続ける可能性も高いことから、また違った意味合いもあると思いますので、今後考えていただけたらと思います。

久保田委員：若い人達にワークショップをすることはもちろん良いことですが、年配の女性たちにも、もっとPRすることが大事だと思います。ごみについては年配の女性たちも興味を持っています。市のPRがだんだん浸透してきた結果かもしれません。

深野会長：リデュースワークショップにおける対象者を考える際の、ひとつの参考になるかもしれません。ワークショップへの期待は大きいですね。

橋詰委員：Web アンケートでの偏りへの危惧についてですが、どの方法を取っても偏りが出てしまわずし、予算の制限もあり、なんでもできるわけではないと思います。事務局からの提案は、現実的な制限の中で決められたと思うので、属性に偏りがあるかもしれないと意識しながら解析をするしかないと思います。それから、個別の設問で気になるところがいくつかあります。市民向けアンケートの問15ですが、問16と順を逆にした方が良いのではないのでしょうか。問16で具体的な行動を聞いているので、それを踏まえてどうすべきかを聞く方が良いと思います。それから、問15では「その他」がありません。3つの中から選べということなのでしょう。そう考えると、問15は少し言葉を整理した方が良いと思います。この質問であれば、ごみになりにくい製品の販売等といった、自分ではなくて、他の人にもっと取り組んでほしいといった考え方が出てくる可能性があります。それはそれで大事なことです。ここで聞きたいのはおそらく「あなた自身が」「市民一人ひとりが」等といった意味だと思いますので、主語を明確にする必要があります。続きになりますが、問19または問20に「ごみになりにくい製品の販売」等といった回答が出てくる可能性があります。そういう選択肢も必要かと思います。

安倍職員：問15についてですが、このアンケート自体は3Rを中心にしており、リデュース、リユース、リサイクルについて何を重要に考えているのかを率直に聞きたいと思っています。これまでは「分別」がみなさんの意識の中に強くあったため、「再生する」という回答が多くなるのではないかと想定しています。今後、リデュース、リユースを考えるにあたって、どのような意識があるのかを聞きたいと考えていますが、「その他」を入れてしまうと3R以外の回答になってしまう可能性があります。設問に3Rという言葉を入れているのが良いかもしれません。

深野会長：問15は3Rの何に重点を置いているかを聞きたいという趣旨のようです。「3Rを推進するために」等と記載すれば、主語がはっきりして繋がるのではないのでしょうか。

波多辺委員：市民アンケートについて、効率的に周知してアンケートに参加してもらうということについて、どのように考えておられますか。期間も限られています。

深野会長：基本計画を策定していることも含めてですね。

小池次長：周知の方法は色々あると思いますが、今後 10 年間の計画について、現在の作業状況をご理解していただいた方が良くと思いますので、周知の方法については事務局で考えていくこととします。PR していくことは大事だと思います。

久保田委員：事務局が色々と遠慮しているように感じられます。時期も迫っており、遠慮していても進まないと思います。

深野会長：遠慮しないでくださいということですね。事務局も大変なのだと思います。

波多辺委員：資料 1-6 について、先進都市で成功している「理由」というものが必ずあると思いますので、それをしっかり調べて頂きたいと思います。色々な条件がある中、この市はこういった理由で成功した、これであれば鎌倉市でも実施できるという事例もあると思います。真似できるところは取り入れながら、計画的、論理的に進めていければ良いと思います。

深野会長：他都市の事例をよく調べていけば色々なヒントが見つかるのではないかというご意見でした。資料 1-6 に関連した資料はないのでしょうか。

安倍職員：現在調べているところですので、次回にご提示できればと思っています。ご指摘の観点も含めて調べていきたいと思っています。

深野会長：少し時間をかけて調べていただければと思います。

久保田委員：資料 1-6 の基本理念の項目で、ブランクになっている箇所はどういう理由ですか。

安倍職員：基本理念を定めていない自治体です。リデュース上位の自治体のうち、3つの自治体では基本理念がありません。

牧田委員：上位の定義はどのようになっていますか。

安倍職員：リデュースは、「日本の廃棄物処理」という環境省が公表している資料の、平成 24 年度の「一人当たりの排出量」の実績値に基づいて出しています。同様にリサイクルは「リサイクル率」の実績値に基づいて出しています。

保坂委員：リデュースでは小金井市が 1 位となっていますが、小金井市は焼却施設の問題があると聞いています。小金井市も焼却施設がありましたが、ある時期から市内で焼却処理ができない状況となりました。その結果、このように上位になっているわけですが、その過程を知りたいと思います。まさに私たちが危惧している状況だと思います。

浅川委員：小金井市については、小金井市を含めた 3 市にまたがる焼却施設がありましたが、建て替えの際に上手く調整ができず、他の 2 市は焼却施設を建設しましたが、小金井市だけが対応できない状況となってしまいました。事情はともあれ、減量に取り組んでいるということは事実だと思いますので、学ぶべきことはあるかもしれません。

深野会長：小金井市の基本方針の 3 番目で、「新たな可燃ごみ共同処理体制への移行を目指す」とあります。色々苦勞をされている自治体なので、分かる範囲で調べていただければと思います。

浅川委員：ごみ質組成調査については、限られた量でサンプル調査をするため、なかなか 1 回の調査だけで結論を出すことは難しいと思います。確率的なデータであるため、データの数が多ければ信頼性が高まります。隔年調査の積み重ねがあれば問題ありませんが、もし年数が少なく、データ数が少ないということであれば、それを補完する形で、施設に持ち込まれるごみの調査結果を参考にするという判断が必要かと思います。

安倍職員：家庭系のごみ質組成調査については、平成 8 年から隔年で実施しています。

浅川委員：それであれば大丈夫だと思います。

安倍職員：しかしながら、過去のごみ質組成調査は分別の区分が違っています。分別が変わって組成に影響を与えていることが多々あるので、使用できるデータは近年のデータになると思います。施設における調査結果については、細かい分類を行っていないため、今回は家庭系のごみ質組成調査で分析した結果から検討していくことが妥当だと考えています。

深野会長：それに関連して、ごみ質組成調査の厨芥類、特に未開封の食品残さや製品プラスチックについて、細かい調査をしていくことが3Rを推進するために必要です。焼却施設の場合は、カロリーや、可燃ごみと不燃ごみの割合が重要であり、調査の目的が違うと思いますが、どこかで連動、補完し合う等、この調査が有効的に機能すれば良いと思います。厨芥類、未開封残さの調査は、今回が初めてですか。

安倍職員：これまでは、表の4-1-2から4-1-6までは一緒になっていました。今回の調査はこの部分を詳しく見ていこうと考えています。ただし、実際どこまで分けて調査できるかということについては、やってみないと分からない部分があります。

深野会長：この調査が実現できれば、相当な資料になります。余談ですが、東京23区でのバイオガス発電の検討で、ごみ質組成調査をかなり実施していました。そういった他都市の情報も参考にすれば良いかと思います。

大道委員：来年の1月から製品プラスチックの分別収集が始まります。今回の調査は11月実施なので、1月の分別が始まった後にどれだけプラスチックが混入していたのかが分かって良いと思います。具体的な話になりますが、もし1月以降に燃やすごみにプラスチックが混ざっていることが見つかった場合、収集しないのでしょうか。

小池次長：難しい部分になるのですが、鎌倉市では収集するのはポリプロピレン（PP）、ポリエチレン（PE）だけとしています。市民の皆様にも、まずは18種類の代表的な分別の分かりやすいごみを出すようにしていただきます。18種類以外については、PPとPEが分かる方はプラスチックアルファとして出していただくことを考えています。

大道委員：ごみを出す側も最初は混乱すると思いますが、一歩前進だと思います。

深野会長：ごみ質組成調査結果は、分別変更後と比較して参考にすれば良いという意見でした。基本方針について、他都市の事例を挙げていただいています。私は、広範囲な考えを包括した理念となってしまうため、基本理念は変えなくても良いのではないかと考えています。ただし、基本方針等は具体的な手段等が入ってくるため、考えていく必要があるかと思っています。

橋詰委員：事業系アンケートの問9でプラスチックや発泡スチロールのことが書かれていますが、事業系一般廃棄物と産業廃棄物の違いについて記載しない方がよいのでしょうか。記載しないと、回答するときに迷ってしまわないでしょうか。排出事業者と許可業者の関係が分からないので判断に迷います。問11の5は、文章の意味が良く分かりません。どういったことを言っているのでしょうか。

安倍職員：焼却施設に搬入されるごみは燃やすごみになりますが、その燃やすごみの中に資源物やプラスチックといった産業廃棄物が入っているということを書こうとしました。産業廃棄物と燃やすごみを混ぜて一緒に産業廃棄物施設に搬入している場合があり、「燃やすごみが適正に分別されていないとき」と書いてしまうと、焼却施設と産業廃棄物施設のどちらに搬入されているのかが分からなくなってしまう。そこで「焼却施設に搬入」という表現にしています。民間の産業廃棄物施設に搬入されているごみについては、受入れ拒否といった行政処分がありません。

橋詰委員：もう少し表現方法を工夫できませんか。

安倍職員：「焼却施設に搬入される燃やすごみに、資源物やプラスチックが混入されている場合には」と記載すれば分かりやすいでしょうか。

橋詰委員：それだと間違いはないでしょう。

牧田委員：排出事業者なのか、回収した一般廃棄物収集許可業者なのかというところが曖昧です。私も良く分からないところがあります。家庭系ごみの分別は分かりやすいが、事業系ごみは許可業者に任されているところがあります。契約している許可業者から「分別をしてください」といったお知らせはくるが、個別にしっかりと指導されるわけではなく、本当にこれでいいのかなと言っている従業員もいます。アンケートが来たときにどう答えるか迷ってしまう感じがします。最初に、排出した事業者なのか許可業者なのかを明確にしていただければ、はっきり分かると思います。それと、事業者に対する啓発、広報というのは許可業者任せになっている感じがしますが、許可業者によって意識にばらつきがあると思います。

深野会長：非常に現実に即したご意見です。判断に困る、慣習的なところもあります。現状がどうなっているかということについては難しい点があると思います。一般廃棄物、産業廃棄物両方の許可を持っている許可業者は、集めた後に分別している場合もあるかと思うので、千差万別なところがあります。許可業者にかなり頼っている部分があると思いますので、アンケートと併せてパンフレット等の資料を配布してはどうでしょうか。現実的には分別が難しいといったようなことが、このアンケートで浮かび上がってくるのがあっても良いと思います。

橋詰委員：一般廃棄物と産業廃棄物の両方の許可を持っている許可業者であれば、心配せずに、業者の指示に従って分別をしていけば良いと思います。アンケートについて、まじめに対応して下さる事業者から問い合わせがくる可能性がありますので、対応の準備をする必要があると思います。もうひとつ気がついたのは、問 14 の 3 番「簡易包装を実施している」については、自分が販売する側において、買った市民の側にごみが出ないようにするという意味である一方、6 番「調理くずが少なくなるように」は、レストラン等が自分たち側から出るごみを少なくしようとしている取り組みです。質問が混ざっていますので、分けるか、両方聞いているということを質問の中で書いておく必要があると思います。どちらの立場で答えたらいいのか迷ってしまう可能性があります。

深野会長：今回のアンケートは一般廃棄物処理基本計画の成果を確認したいという趣旨もありますが、それと関連しますか。

安倍職員：項目は、基本計画に記載してある事業者の役割を踏まえています。今のご意見は、「事業所の中で」ということを強調して書いた方が分かりやすいということですね。

橋詰委員：簡易包装の実施は、普通は買う側のごみを減らそうという取り組みです。事業者が市民のために行っている取り組みと、自分の事業所から出るごみを減らすために行っている取り組みが、この質問の中に混ざっていると思います。7 番の「繰り返し使用できる製品・再生品や、グリーン購入対象品を使用又は生産、販売している」についても、使用、生産は自分の事業所ですが、販売は市民の側で出来るだけごみが出ないようにする取り組みです。

安倍職員：基本計画では、市全体のごみの減量やリサイクルに、事業者も協力してくださいという表現になっているため、そのような項目となっています。

橋詰委員：この質問では、どういった取り組みをされているのかを聞きたいだけなので、質問の中に、

「事業者自身の減量化の取り組みと、販売先における減量化の取り組みの、両方について触れています」と書くのが親切だと思います。

深野会長：深読みする人は迷うかもしれませんので、注意書きを入れる等の検討をしてください。他に意見はありませんか。

安倍職員：亀山先生から事前に電子メールでご意見を頂いています。ひとつ目は、質問項目を増やせるのであれば、事業者側の生ごみを減らす観点から、外食をするときにどのような取り組みがあれば食べ残しを減らすことができるかを問う質問を入れてはどうかというご意見でした。ふたつ目は、今回はマクロミルという会社を通してWEBアンケートを実施しますが、神奈川県ではe-かなネットアンケートというもので回答が得られたので、鎌倉市においても同様のものがあるのであれば、利用することで経費を安くすることができる。ただし、マクロミルにも十分なモニターがいるのであれば問題はないとのご意見でした。ちなみに、鎌倉市にもe-モニターがあり、300名弱の登録があります。登録されている方にメールを送って回答を得る方法で、回答率は4割程度と聞いています。ただ、市政に関心がある方がこのe-モニターに登録されている傾向があり、どの層を取り出すかということにもなりますが、どちらかと言うと今回は市政に関心のない方の意見も聞きたいということで、マクロミルを通してアンケートを実施したいと考えています。マクロミルの方が、母数が多く、前回のアンケートと同じ質問を入れているので、偏りについての比較はできます。

深野会長：最初にも、WEBアンケートだけで良いのかという意見がありましたが、紙ベースであるなしに関わらず、やり方や統計の仕方を工夫すれば問題ないという意見もありました。他に特に意見がなければ、事務局が提案された方法で、アンケートを実施するというところでよろしいでしょうか。審議会で出た意見を踏まえて修正し、実施していただければと思います。

## 報告事項 1 有料化等について

事務局から資料2及び有料化等のパンフレットについて報告を行った。

深野会長：特に多かった質問は、どういった内容でしたか。

谷川課長：鎌倉地域での説明会では、観光客が多いため、観光ごみの対応についての質問がありました。市では、観光ごみについては持ち帰りをお願いしており、その周知も今後していきたいと考えています。観光ごみが出されるステーションについて、どのように対応していくかはケースバイケースとなりますが、検討していきたいと考えています。いずれにせよ、観光ごみを有料袋で出すと市民の負担となってしまうので、無料である「清掃ごみ」等と同様の形で出してもらい、負担がないような方法で対応していきたいと考えています。

深野会長：ありがとうございます。大変でしょうが、周知・説明を、十分に時間をかけて行っていただきたいと思います。柔軟な対応も必要かと思いますので、検討をお願いします。それでは有料化の件についての報告は以上とします。続いて鎌倉市ごみ焼却施設基本計画についての説明をお願いします。

## 報告事項 2 鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の進捗状況について

事務局から鎌倉市ごみ焼却施設整備基本計画の進捗状況について報告を行った。

深野会長：ありがとうございます。ご意見、ご質問があればお願いします。

久保田委員：4つの候補地が全て深沢地区です。1番の野村総合研究所跡地は、既に議会で陳情書が採択

されています。町内会は、4つの候補地すべてに反対して、色々なところで臨時総会を開いています。どこかに決めなければならないのですが、決まることよりも、決まった後のことが気になります。皆が本当によく分かるように説明をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

石井部長：どうしても焼却施設というものは必要です。我々が行っていかなければならないことは、しっかりとお説明していくことと、良い施設を造ることだと考えています。従前の焼却施設のイメージと、実際に近隣で造られている焼却施設とは全く違います。外観等についても非常に工夫されています。こういったことをしっかりと踏まえて、「地元に来てよかった」と思ってもらえるような施設造りを、是非市民の方々と一緒にやっていきたいと考えています。

深野会長：ありがとうございました。報告事項については以上とします。

### その他 1 次回の当審議会の開催日程等について

深野会長：最後に、その他として次回開催日程についてお願いします。

内海課長：様々な事項についてご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を整理し、深野会長と相談させていただきながら作業を進めていきたいと考えています。次回は1月下旬から2月上旬を予定しています。また改めて調整させていただきたいと思います。